

5. 地域医療教育研究推進プログラム

本プログラムでは、全国8地区において、国公立大学を拠点とした地区・地域内の大学及び医療関連機関との有機的な連携によって、社会のニーズに応える高度な地域医療を担うことができる高度先導的薬剤師として、地域の福祉医療・保健衛生を主導し、大学・地域連携による先進的地域医療を担うことができる薬学研究者や薬剤師の養成を目指す。さらに、多職種連携によるチーム医療・地域医療教育を担う実務実習指導薬剤師や臨床系大学教員の養成を目指す。

参画大学においては、すでに第2期中期目標期間中に実施した「先導的薬剤師養成に向けた実践的アドバンスト教育プログラムの共同開発」事業ならびに、**第3期中期目標期間中から実施している「高度先導的薬剤師の養成とそのグローバルな活躍を推進するアドバンスト教育研究の共同開発」事業において**、6年制学部及び4年制大学院博士課程の教育研究プログラムの充実を図っており、その発展的な継続、さらにはこれらを基盤とする新たなプログラムの開発と実施が期待される。

6年制薬学部及び大学院博士課程の教育研究における「地域医療教育研究推進プログラム」については、これまで国公立19大学が全国8地区（北海道、東北、関東、北陸、東海、近畿、中・四国、九州・山口）において、それぞれ地域の病院や薬局との連携のもとに主導してきた薬学実務実習の実施体制や地域医療発展へ貢献してきた実績を基盤とし、また本事業の「地域薬学人材養成教育拠点形成プログラム」において構築した薬学人材養成教育拠点を基軸として実施する。本プログラムとしては、地域の医療機関や病院、薬局、他大学との連携による、高度先導的薬剤師養成において重要な優れた臨床能力の養成に必要な地域医療教育を主導できる指導薬剤師研修プログラムや、自大学卒業生・修了生をはじめ社会で活躍する薬学人材のキャリアアップや専門性の高度化を可能とするアドバンストリカレント・アドバンスト生涯教育プログラム、学部生や大学院生の地域医療への関心を高め実践的な臨床能力の向上を図る地域医療アドバンストインターンシッププログラムの実施が挙げられる。

【2024年（令和6年）度】

1) 学部生、大学院生を対象としたプログラム

<金沢大学>

○がん高度医療人材養成事業

- ・学生・大学院生および薬剤師を対象としてがん薬物療法における最新知識および臨床現場からのエビデンス発信スキルの修得を目的に研修会等を実施する

○金沢大学×野々市市おくすりプロジェクト

- ・野々市市との連携した事業で、1) 地域でサロンを開催し、ポリファーマシーの解消に向けた住民への知識啓蒙活動を行う、2) KDBを用いて野々市市におけるポリ

ファーマシーの動向と関連要因を解析する。

<岡山大学>

○ 地域密着型OTCカウンセリング研修（＊）

- ・2024年9月2日～3日に本学学部生を対象として地域密着型OTCカウンセリング研修を株式会社レデイ薬局のプライマリ・ケア認定薬剤師の指導のもとで実施した。学内で公募の上、学部生8名（1年生3名、3年生3名、6年生2名）が選抜され、帯同教員2名とともに研修に参加した。OTC医薬品の基礎知識、来局者の症状等に合わせたOTC医薬品の選定を講義、グループワーク、ロールプレイ等で学修した。さらに、薬が苦手な患者のための服薬サポート製品や、介護用品の大人用おむつや尿漏れパッドなどの実物を用いた研修も行った。終了後の学生のアンケートでは、実務実習でも十分にカバーできないOTCの実践的な取り扱いやコミュニケーション能力の重要性などを認識する重要な機会であったことが報告された。

<広島大学>

○ 遺伝子検査セミナーの開催

- ・個人の遺伝子検査が簡易に行われるようになり、間違った認識を持つ一般市民が増えるなど問題が発生している。そこで、薬局薬剤師が関与することによってこの問題を解決することを目指し、薬局薬剤師と大学の共同での遺伝子検査セミナーを開催し、一般市民への啓発活動を行った。2024年度も漢方薬局も加え、東洋医学的観点からの生活習慣指導も行った。

<九州大学>

○ DXを活用した教育プログラム

- ・電子処方箋、オンライン服薬指導など昨今の世の中の急速な変化に対応するため、関連する知識に関する講義とオンライン服薬指導システム（テルモ社製ハートライン）を用いた演習を実施した。

<熊本大学>

○ ウィズコロナ時代の新たな医療に対応できる医療人材養成事業

- ・熊本大学薬学部薬学科における薬学教育デジタルトランスフォーメーション（DX）を加速し、ウィズコロナ～アフターコロナ時代に対応できる先進的な薬剤師を育成する目的で、DXファーマ養成プログラムの強化を図り、治療薬やワクチンによる副作用の評価に必要な知識・技能を効率的に学習する講義・実習、デジタル医療機器・ウェアラブル端末を用いたフィジカルアセスメントの重要性について学習する講義・実習、オンライン服薬指導・疑義照会に必要な知識・技能について学習する講義・ロールプレイ実習等を行った。

<長崎大学>

○ 医歯薬高学年次共修授業

- ・本学医学部医学科4年生、医学部保健学科4年生、歯学部4年生、薬学部薬学科4年生対象の共修授業で、10名程度/グループで、退院時カンファレンスを想定した症例検討をおこなった。2024年11月11日と11月18日にそれぞれ1コマ、合計2コ

マ行った。

○オンライン服薬指導実習

- ・ニプロのオンライン服薬指導システム「ニプロハートライン TM」を取り入れたオンライン服薬指導実習を実施し、遠隔医療に対応できる人材の育成に着手した。対面による服薬指導実習を行った4年生対象に、オンライン服薬指導実習を2日(2024年11月25日、26日)かけて実施した。

○A-fib研修プログラム

- ・長崎大学薬学部が、米国ニューメキシコ大学薬学部及び長崎県薬剤師会と協力して開発している地域医療教育プログラムであり、心房細動スクリーニングを基盤として、疾病予防に貢献できる高資質な薬剤師を養成することを目的にしている。長崎大学病院循環器内科、長崎大学脳卒中中心臓病等総合支援センター、長崎大学大学院医歯薬学総合研究科地域医療協働センター、行政などの多職種の協力を得て、長崎市内で心房細動スクリーニングイベントをおこなった。イベントでは、9名の地域薬剤師とともに学生は簡易心電図測定、心房細動の早期発見と予防の啓発を行なった。2024年5月19日、9月16日に実施。トレーニングを受けた学生5名、教員6名。

○高次臨床実務実習 I

- ・臨床薬剤師としての実践的能力を養うとともに、薬物治療に関する問題発見・解決力を身につけることがねらいである。長崎大学病院内科系診療科(第一内科、第二内科、消化器内科、循環器内科、原研内科、熱研内科)の病棟と外来で2週間の診療参加型臨床実務実習を行った。薬学科5年生11名が受講。

○高次臨床実務実習 II

- ・五島市と新上五島町で、離島実習(保健・医療・福祉)を実施し、地域の患者や住民と向き合った全人的医療とチーム医療を体験した。さらに本学大学病院の専門診療科で外来・病棟実習を通して、専門薬剤師に向けた実践的能力を涵養した。薬学科6年生20名が受講。

○在宅医療・福祉コンソーシアム長崎

- ・長崎県内の国公私立3大学(長崎大学・長崎県立大学・長崎国際大学)が、さらに医学・歯学等の教育者を加えた協働教育体制の充実を図り、県内の4自治体・12職能団体・2法人と連携し、一体となって、多職種協働による在宅がん医療・緩和ケアを担う専門人材育成の拠点作りを目指している事業。2024年度も長崎県内大学で単位互換が可能な授業科目として、薬学部から在宅医療関連の3つの科目を提供した。

○早期体験学習

- ・本学習は医療現場での薬剤師の役割を理解し、キャリアについて考えることが狙いである。長崎市内の調剤薬局・病院を訪問し、薬剤師業務を見学、話を聞いた。見学後は大学内にて体験報告会を行い、学びを共有した。学部1年生が参加。

<名古屋市立大学>

- 令和5年度文部科学省(大学改革推進事業)「地域の医療ニーズに対応した先進的な

薬学教育に係る取組支援採択事業「東海地区連携で行う薬剤師不足地域でのアドバンスト実習とそれを活用した薬学生・薬剤師PBL学習プログラムの構築」 【連携】

- ・薬剤師の地域偏在を解消するための大学の教育的な貢献を目標に採択された事業であり、高齢化や人口減少が進み医療人材が不足している地域でのアドバンスト実習を正規の実務実習を修了した薬学生に体験させ、その地域で滞在してその地域の医療の現状や課題、さらには魅力を発見し、それを「映像コンテンツ」のプロダクトとして制作するという課題解決型学習のプログラム。プログラムで制作した映像コンテンツを活用して、学生主導による授業、薬剤師への研修を行い、アドバンスト実習の成果を広く薬学生ならびに薬剤師に公表して薬剤師偏在問題を考えてもらうことも、本プログラムの重要な目標とした。

今年度は、東海4県の連携大学が各2か所（名古屋市立大学は1か所で2回実施）の実習を担当し、7地区で8回のアドバンスト実習を行った。各地区には各大学からの希望者5名が参加した。

2024年度アドバンスト実習実施日

岐阜県（岐阜薬科大学担当）飛騨・高山地区：2024年9月17日（火）～20日（金）

下呂・金山・郡上地区 2025年2月17日（月）～21日（金）

静岡県（静岡県立大学担当）賀茂地区 2024年9月2日（月）～6日（金）

川根本町地区 2024年12月9日（月）～13日（金）

三重県（鈴鹿医療科学大学担当）熊野・尾鷲地区 2025年1月20日（月）～24日

（金）熊野・鳥羽志摩地区 2025年2月3日（月）～7日（金）

沖縄県（名古屋市立大学担当）沖縄北部地区 2024年9月2日（月）～6日（金）、

2025年3月3日（月）～7日（金）

成果レポートや映像コンテンツは東海薬学教育連携コンソーシアムHPにまとめ、公表するとともに、各大学で利用できるようにした。映像コンテンツを活用した薬学部PBL授業は名古屋市立大学で2年生、3年生、4年生に向け計3回、岐阜薬科大学では3年生、5年生に向け計2回、鈴鹿医療科学大学では2、3、4年生合同授業を1回と6年生による4年生対象PBL授業1回の計2回、静岡県立大学では1、3年生合同によるPBL授業1回を今年度は実施した。映像コンテンツの薬剤師研修への活用は、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、静岡県立大学、鈴鹿医療科学大学でシンポジウムやワークショップ、合同研修会として各1回実施された。

<静岡県立大学>

○ 地域防災演習

- ・静岡地震防災センター及び静岡県立大学にて、防災演習を必修科目として行った。ふじのくに防災マイスター養成講座を受講し、ふじのくに防災マイスターを取得することができる。

○ 地域医療アドバンスト実習（賀茂地区）

- ・静岡県賀茂地区において、本学学生2名（5年生、他大学学生3名）により5日間のアドバンスト実習を実施した。

○ 地域医療アドバンスト実習（川根本町地区）

- ・静岡県川根本町地区において、本学学生2名（5年生、他大学学生3名）により5日間のアドバンスト実習を実施した。

○ 地域医療アドバンスト実習

- ・本学学生（5年生）が沖縄北部地域および三重県尾鷲地域、岐阜県飛騨高山地域で行われた、地域医療に関するアドバンスト実習に参加した。

○ 薬学部1年生と3年生を対象とした地域医療演習

- ・本学学生（1,3年生）を対象にした地域医療演習を行った。地域医療アドバンスト実習に参加した学生から地域医療の状況や学んだことが報告された。さらに地域医療についての問題点について小グループ討議及び発表会を行った。

<和歌山県立医科大学>

○ 市民公開講座「最新の医学・医療カンファランス」

- ・教職員、学生、一般市民を対象としたオンライン公開講座「最新の医学・医療カンファランス」を医学部、保健看護学部と合同で実施しており、2024年度は3名の薬学部教授が講演を行った。

○ 医学部薬学部合同勉強会

- ・教員及び学生を対象として、年2回の医学部と薬学部の合同の勉強会を実施している。県立大学として地域医療に貢献することが使命であり、勉強会では医学部および薬学部における関連する研究成果の紹介・情報の共有化を行っている。学生のキャリア形成の推進にも資するものであり、「a. 高度医療人キャリア形成教育研究推進プログラム」にも位置付けられる。